

公益社団法人 私立大学情報教育協会
平成 25 年度 第 2 回 歯学教育 FD/ICT 活用研究委員会 議事概要

I. 日 時 平成 26 年 1 月 31 日 (金) 10:30~12:30
場 所 公益社団法人 私立大学情報教育協会事務局会議室

II. 出席者 神原委員長、新井委員、佐藤委員、花田委員、奥村委員、藤井委員
(事務局 井端、森下、平田)

I. 検討事項

今年度は教育の質的転換に向けた教育改善の促進を目指して、昨年度とりまとめた「ICTを活用した分野別の教育改善モデルの提言」と、それに対するサイバーFD研究員の意見を踏まえて、学生の能動的学修（アクティブ・ラーニング）を実現していくための効果的な取り組み方や教員の職能開発等について、今後の研究課題を検討することになっている。そのため、今回は主に、歯学分野における教育改善モデル実現に向けた来年度の研究課題について検討した。

(1) アンケートの意見を踏まえた教育改善モデルの見直し

モデルへのアンケートの意見では、内容についてほぼ賛同を得られているため、モデルの修正は行わないことを改めて確認した。

(2) 来年度の研究課題

① 世界基準の医療に対応した歯学教育（世界基準カリキュラム）の提案

現在の歯科医療は治療に重点が置かれ予防・健康寿命の観点の教育がおろそかになっている。また国家試験のための知識偏重型教育になり改革をする必要がある。この様に歯学教育は将来国際的に世界基準を導入する際今のままでは対応できない状況である。コア・カリキュラムを含め予防管理を中心としたモデルの作成が急務であるとの意見がなされ歯学教育の国際化を提案するに至った。

② 臨床と知識教育のPBL型統合学修のモデルの提案と現場での導入

学部教育（卒前教育）と臨床の一貫性が無く臨床現場での力量不足が指摘された。このような現状の打破を目指し地方公共団体、他分野との連携を視野に入れ統合型PBL学修を進めるべきである。実現可能な大学からパイロットケースとして実験を進めていきたいとの提案がされた。

2. 来年度委員会までの課題

- ① 米国の歯学教育の動向について、委員長が米国の学会を通じて情報入手する。
- ② 日本歯科大学における電子カルテを活用した授業の状況については担当委員が状況を確認する。
- ③ 慶應義塾大学における電子カルテ活用の状況、東京女子医科大学の国際基準のアウトカム基盤型カリキュラム実施について、詳細情報を入手する。

3. 来年度第1回委員会

平成26年度の第1回委員会は、4月18日（金）10：30より開催し、世界基準の医療に対応した教育の提案、臨床と知識教育のPBL型統合学修のモデルの提案について具体的に検討することにした。